

# 令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立糸崎小学校

【別紙1】

## 1 本年度の結果

### ①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	52.6	50.9	50.1	50.9	52.1
	本年度結果 偏差値平均	50.3	52.4	51.8	48.9	50.2	50.8
算数	前年度結果 偏差値平均	/	51.3	48.8	47	49.5	49.8
	本年度結果 偏差値平均	51.4	53	50.9	52	49.6	51.3
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	44	50.1	50.2
	本年度結果 偏差値平均	/	/	47.5	50	46.8	48
全体	前年度結果 偏差値平均	/	52	49.9	47.1	50.2	50.8
	本年度結果 偏差値平均	50.8	52.7	50.1	50.3	48.9	50.5

### ②全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	81 (117)	72 (113)
本年度結果 (対県比)	66 (95)	66 (103)

## 2 令和5年度について

### ①調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●2年生の国語では、読み返してよいところを見つける(全国50.8%に対し本校47.7%)、文や文章を正しく書く(全国74.0%に対し本校73.9%)に課題がある。算数では、時刻の読み方(全国73.3%に対し本校72.7%)、絵や図を用いた数量の表現(全国64.4%に対し本校63.6%)に課題がある。</li> <li>●3年生の国語では、読み返してよいところを見つける(53.6%)、重要な語や人物の行動をとらえる(63.7%)に課題がある。算数では、長さ・かさ(58.2%)、時間の単位(64.4%)、表やグラフ(47.7%)に課題がある。理科では、「物の性質と働き」で、物の置き方と重さの関係(52%)に課題がある。</li> <li>●4年生の国語科では、漢字の「へんやつくりの理解」(67%)に、説明文では、段落ごとの内容を把握すること(43%)に課題がある。算数科では、「測定・データの活用」で、およその重さを推測すること(57%)、2つの棒グラフの比較(57%)に課題がある。</li> <li>●5・6年生は、算数のデータの活用に課題がある。</li> </ul>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●思考・判断・表現において「書くこと」の正答率が33.3%と低い。</li> <li>●誤答としては、カード④からわかることを書き忘れていた児童が多かった。</li> <li>●図形に課題がある。「テープを直線で切ってきた面積の大小のわけを書く」の正答率が18.5%と低い。</li> </ul>
---	---

### ②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標(何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組(どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全教諭が「必然性のある問いの設定」「タイムマネジメント」「R80」で書かせる内容を意識し、ファシリテーターする授業を実施できるようにするために、授業の視点を明確にして指導案検討、事後協議を行い、授業力の向上を目指す。</li> <li>○学習内容が深い学びに至っていたかどうかを振り返り、改善に努めるために、全教諭が年間一人二本授業提案を行う。</li> <li>○毎学期に学習アンケートを実施することにより、個の実態を把握し、授業改善、個の支援に努める。</li> </ul>	<p>①NRTの誤答分析による各学年、学校全体の実態把握と改善計画の立案、各学年の児童実態を把握し、今後の各学年の指導方針を共有する。</p> <p>②学校経営会議・校内研修において研究を見直し、全教職員でRPDCAサイクルに則って改善を行う。</p> <p>③目指す授業(糸小モデル・深い学び)の在り方を共有するために外部講師を招いた校内研修の実施を行う。</p> <p>④一人一授業の提案</p> <p>⑤全国学力・学習状況調査の全児童の誤答分析・実態把握を全教職員で行い、各学年においてどのような力を身につけさせる必要があるか共有し、授業改善に努める。</p> <p>⑥校内研修において、学年実態を共有し、改善に向けて全教職員で取り組む。</p> <p>⑦スケジュールでのアシストシート等を活用した学力補充。</p> <p>⑧次年度に向けた全国学力・学習状況調査の対策。</p> <p>※朝のドリルタイムで全学年一斉に四則計算、視写をすることで学力の定着を図る。それと並行して、アシストシートも活用していくことで、次年度のNRTや全校学力テストに向けて取り組む。</p>	<p>①6月(校内研修)</p> <p>②7月～8月(校内研修)</p> <p>③8月(校内研修)</p> <p>④6月～2月(授業提案)</p> <p>⑤8月(校内研修)</p> <p>⑥8月～10月(校内研修)</p> <p>⑦6月～3月(各学級)</p> <p>⑧2月～3月(学級・5年生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国比以上)</li> <li>・単元末テスト(全学級80点以上の児童80%)</li> <li>・学習アンケート(80%以上)</li> <li>・Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国比以上)</li> <li>・単元末テスト(全学級80点以上の児童80%)</li> <li>・学習アンケート(80%以上)</li> </ul>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が安心して学校や集団で過ごすことができるようにするために、学習規律や教室環境(整備)を児童とともに考えたり見直ししたりする機会を設ける。</li> <li>○児童自身が学級や学級集団の中に居場所を実感できるようにするために、全学級において当番活動や係活動など一人一人の役割を明確化した取組を行う。</li> <li>○学校全体で回復力の向上に努めるために、回復力向上をねらった授業づくりや学校行事、特別活動等の取組について全教職員で共有・実施する。</li> </ul>	<p>①Q-Uの分析における実態把握と改善計画の共有。</p> <p>②校内研修において各学級の実態把握と実態を基にした個の支援方法を共有し、全教職員で取り組む。</p> <p>③研究授業においてレジリエンス(回復力)が向上することを意識した授業の実施。</p> <p>④休憩時間を利用して学級での全員遊びを実施することで、一人一人をお互いがクラスの仲間として大事にしよう学級集団を目指す。</p> <p>⑤糸小ギネスをクラス全体で取り組むことで回復力の向上に努める。</p>	<p>①6月(校内研修)</p> <p>②6月(学校経営会議)</p> <p>③6月～2月(一人一授業提案)</p> <p>④4月～3月毎週(各学級)</p> <p>⑤9月(各学級)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回目のQ-Uにおける一次支援数値向上(全学級で1回目以上)</li> <li>・「自分のことアンケート」における肯定的評価85%以上</li> <li>・レジリエンスアンケートによる心の面からの児童の実態把握</li> </ul>

## 3 令和6年度について

### ①調査から明らかになった課題

<p>【学力調査について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全学年必要な情報を捉え、それをまとめたり、要約したりすることに課題がある。</li> <li>●低・中学年では、図形に関する問題、高学年では、速さに関する問題に課題がある。</li> <li>●発展的な問題や実験の失敗理由を答える問題に課題がある。</li> </ul> <p>(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国語においては、文章を読み解く力に課題がある。問題文を丁寧に読まないまま解釈をして、問題を解いている。</li> <li>●算数においても国語同様に文章問題を読み解く力が弱い。そのため、「～より少ない」と問題文にあれば、式を『ひき算』にするなど、文章問題において聞かれていることが分かっていない。</li> <li>●国語科・算数科における児童の課題から(問題文を読み解く力・聞かれていることに対する考えを条件に合わせてまとめる力)など長文慣れをしていないこと、読書量が足りないことが課題として分かった。</li> </ul>
---

### ②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組

重点取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
<p>【学力向上について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長文の読み取り</li> <li>・まとまった文章を書くこと</li> <li>・四則計算の確実な定着</li> </ul>	<p>①全学年全教科等でのR80の実施(必須)</p> <p>②授業タイムマネジメントの徹底</p> <p>③ドリルタイムを活用して、内容の大体を捉えまとめる練習、</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NRT全国学力学習状況調査(偏差値県平均以上)の数値結果</li> <li>・学期末テスト(各学期末)</li> <li>国語科、算数科で、知識・技能、思考・判断の合計平均が80%以上の児童の割合</li> </ul>
<p>【学級・学習集団づくりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる居場所づくり</li> <li>・学習規律・学習環境の整備</li> <li>・児童生徒が主体の絆づくり</li> </ul>	<p>①学期に1回の「糸小ギネス」の実施</p> <p>②週に1回の学級遊び</p> <p>③回復力向上を目指した授業づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のことアンケート</li> <li>「自尊心の項目 6 13」</li> <li>「自己効力感の項目 17」</li> <li>「回復力の項目 22 24」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合</li> </ul>